

**トランプ大統領のツイッターに
過剰反応はするな！
「防衛装備品」の
購入は是々非々で
対応すべし。**

トランプ大統領が日本に要求した「防衛装備品」と「エネルギー」をアメリカからもっと買えという。

同盟国なのだから買うのは構わない。

しかし、「防衛装備品」とは何の事を指すのか？国産には良いものがないのか？

「必要なら買う」「必要なければ買わない」是々非々は、はっきりすべきだろう。

これは非常に大事、かつ簡単なことだ。

友好ムードに流されて、なんでもアメリカの言う通りにすることはしないのだ。

トランプ大統領が「アメリカファースト」なら安倍晋三首相も「ジャパンファースト」で行くべきだろう。日本とアメリカは恋人でも夫婦でもない。「親しいトモダチ」、「近い親戚のようなもの」と考えればよい。

忘れてはいけないのは、おとなりの南朝鮮（韓国）では例の従軍慰安婦とトランプ爺さんが抱きあい、日本の竹島のエビを晩餐会のテーブルに出していることだ。トランプ爺さんはその皮肉がわからないのだろうか？



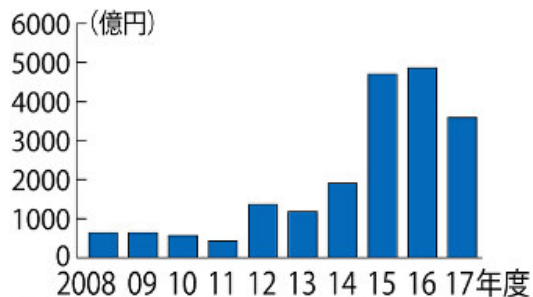
**〈トランプ大統領〉米国製防衛装備品
「大量購入」要求に波紋……(毎日新聞)**

毎日新聞の言うように、《トランプ米大統領が来日時に、米国製防衛装備品の「大量購入」を要求したことが、政府内で波紋を広げている。》のは当然のことです。

この際、国防予算については財政事情を度外視して防衛費全体額をグリーンと増やしてはどうだろうか。「北朝鮮の脅威」と「中国の脅威」に対抗するためには国防費の増額が一番効く処方箋です。

「米国からの装備品購入は安倍政権下ですでに増加している」（毎日新聞）なら、

米国からの防衛装備品購入額



※有償軍事援助(FMS)のみ。予算ベース

米国からの防衛装備品購入額

本来の『モノ造り大国』の日本の本領を發揮して、国力を総動員してアメリカの装備品以上の性能の日本産装備品を造り、同盟国アメリカに購入を迫ればよいだけのこと。日本とアメリカの高品質の装備品なら、自由主義陣営の国々はこぞって購入すること間違いなし。ピンチをチャンスに変えることを考えてはいかめだろうか？

菅義偉官房長官は7日の記者会見で「自衛隊の装備品は防衛計画の大綱や（5年ごとに大枠の予算と購入品を定める）中期防衛力整備計画（中期防）に基づき、米国製を含めて計画的に取得している」と述べ、現行計画にない装備品の追加購入に慎重な姿勢を示した。

トランプ氏は6日の記者会見で「日本が大量の防衛装備を買うことが好ましい。そうすべきだ」と訴えた。7日には「訪日と安倍晋三首相との友情が、我々の偉大な国に多くの利益をもたらす。軍事とエネルギーで莫大（ばくだい）な発注があるだろう」とツイッターにつぶやいた。

トランプ爺様ちよい「ピンぼけ」ですね。

近年、米国からの装備品購入は大幅に増加している。ほとんどは米政府が提示する条件を受け入れなければならない政府間取引の有償軍事援助（FMS）だ。FMSによる購入額は、2008～12年度の5年間で計約3647億円だったが、安倍政権が予算編成した13～17年度は、計約1兆6244億円と約4.5倍には

ね上がった。ステルス戦闘機F35、垂直離着陸輸送機オスプレイ、弾道ミサイル防衛対応のイージスシステム（イージス艦搭載）など高額装備品の導入が増えたためだ。トランプ氏が「世界最高の戦闘機」と言及したF35は計42機の購入が決まっており、陸上配備型の新型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」の導入も決定済みだ。

来年末には次期中期防（19～23年度）を策定する。政府内にはその際に「トランプ氏の機嫌を損ねない程度に対応する必要はある」（外務省幹部）として、米国からの購入を一定程度増やすべきだとの声が出ている。将来的に導入することを想定している装備品について購入時期を早めることも含めて検討する見通しだ。

◆ミサイル防衛態勢強化のイメージ

